

## 俳句

赤き色固く閉ざして冬木の芽  
中野 千賀子

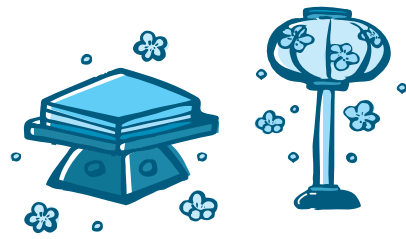
流れ雲久慈の流れの春めけり  
綿引 英子

冷たき手一二三と母立たす  
飯田 勇一

菜の花や常陸の国のカステラ  
竹内 幸子

身の少し浮かぶ思ひの春渚  
田口 勝元

曾孫の名読めない書けない聞きにくい  
矢次 キヨ



## 川柳

コロナ禍と舌禍で五輪の道けわし  
富田 多蔵

頑張ろう城里にワクチン届くまで  
車田 綾子

山菜取りみんなマスクで声を掛け  
川原 清

早春やウグイスの声ましまらず  
飯村 孝一



## 文芸しるさと

### 短歌

戦前の「教育勅語」の目にふれて昔をしのびくり返し読む  
杉山 みちこ

蒼い空夕映えの空翔ふていのち終ふ姉陽炎となる  
大森 久子

寒き日は身の衰えを感じるも温き陽ざしに力湧きくる  
佐川 あや

鉢植えのシクラメンを娘が持ち来たり日々眺めては心和みぬ  
所 美恵子

春の七草に数ふる御形とは  
母子草と知り小さき驚き  
渡辺 千紗子

学びつつ詠みし吾が短歌を読みくるる皆様の幸を祈りておりぬ  
山形 式妙

節分や鬼は居ないと豆打たずいつもと変らぬ夕食の膳  
信田 育子

誰しもが不安を抱き迎えてる新年はコロナ収束願いおり  
富田 佐智子

半月は西に傾きオリオンの輝き冴ゆる大寒の夜半  
萩谷 登喜子

義姉が来てあれやこれやと語らいし日だまりの中時を忘れる  
富田 欽子

文明の仮面の陰に愛なき身を売る女のなにゆゑ多き  
矢次 洋平



# しろさとまち通信

—城里町地域おこし協力隊— Vol.59

城里町地域おこし協力隊の連載、3月号は田村芽子が担当します！



▲100キロクラスの猪を捕獲した時の様子

こんにちは、有害鳥獣分野の田村です。3年の任期も、いよいよ終わりが近づいてきました。当初の活動目標は、「一人前の猟師になること」と「猪の活用」であり、ゆくゆくは狩猟が生業になればと考えていました。活動期間は、有害捕獲の現場確認者として、幾多の猪の最期に立ち会いました。自身では、猟友会の方にお世話になりながら、わな猟で猪を6頭捕獲しました。先日は、協力隊の方が開墾している耕作放棄地で100キロクラスの大物がわなに掛かり、緊張感も徒労も大きかった分、感動もひとしおでした。その一方で、大きさや雌雄に関わらず一つの命ということを忘れないでいたいと改めて感じた瞬間でもありました。

「猪の活用」については、猪革製品を作製してありますが、まだまだ試作の段階です。諦めずに形にしていきたいです。「狩猟」というのは「農業」「林業」などと違い、職業として確立されたものではありません。「猪業」という言葉はあまりなじみが無いですが、可能性が無限大である分、自分で道を作るのは大変で、今は「生業」にする方法を模索している最中です。形にならないのは辛いですが、自分の活動や、狩猟経験が誰かの心を動かすとしたら、それほど嬉しいことはありません。希望を胸に、これからも狩猟を続けていきたいと思えます。3年間ありがとうございました。まだまだ伸び代たつぷりの半人前猟師ですので、これからも見守っていただけると幸いです。

問合せ  
農業政策課  
☎029-288-3111 (内線253)